



有楽町の駅前に並んだ物販ブース

エリエリ ぐんま暮らし体験型移住フェアに参加

ファミリーなどの若者層に、群馬と南牧の魅力をアピール

昨年11月24日、有楽町の東京交通会館で行われた群馬県主催の「ぐんま暮らし体験型移住フェア」に、南牧村の移住相談員として参加しました。

ブースやステージ会場を設置する力の入れよう。南牧村からも、協議会員・移住コーディネーター・役場担当協力隊で、村の喫茶店をくもく運営者の鰐渕さくら2名が「魅力PR・交流エリア」でコーヒーバーを振舞いました。

当日は朝からの雨で午後からは来場者が少なかつたものの、お昼過ぎから徐々に賑やかになりました。特に「体験エリア」で行われた手作り体験の影響でファンリーが多く、全体的に年齢層は若い印象でした。どの市町村でも若者の移住は士歓迎でしょうから、その意味では成果があつたと思います。詳細は協議会ホームページの活動報告に掲載しています。(志賀寄稿)



### 群馬特産のだるまの絵付け体験

## 「村の喫茶店もくもく」がフェアに出展 ウガンダコーヒーを来場者に提供

うござります。昨年中は協議会の活動に関しまして、住民の皆様や会員、役場ならびに各行政機関のご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。引き続き、本年もよろしくお願ひします。



「村の喫茶店もくもく」を出展した鰐渕さん（右）と小松さん（左）

2020(令和2)年2月発行  
通巻第32号版(冬季号)  
  
発行責任者及び発行元：  
南牧山村ぐらし  
支援協議会  
問合せ：南牧村役場  
村づくり・雇用推進課  
協議会事務局  
電話：0274-87-2011(代)  
  
紙面編集：松林・谷津

協議会HP  
<http://nanmoku.org/>  
活動内容や各種情報を

【元年度10～12月  
空家問合件数】

- 電話による問合せ 6件  
(10月 0件)  
(11月 4件)  
(12月 2件)
- メール・手紙・FAXでの  
問合せ 46件  
(10月 6件)  
(11月 18件)  
(12月 22件)
- 現地物件見学案内 9件  
(10月 1件)  
(11月 7件)

## 【協議会ウェブサイト 訪問・閲覧状況報告】

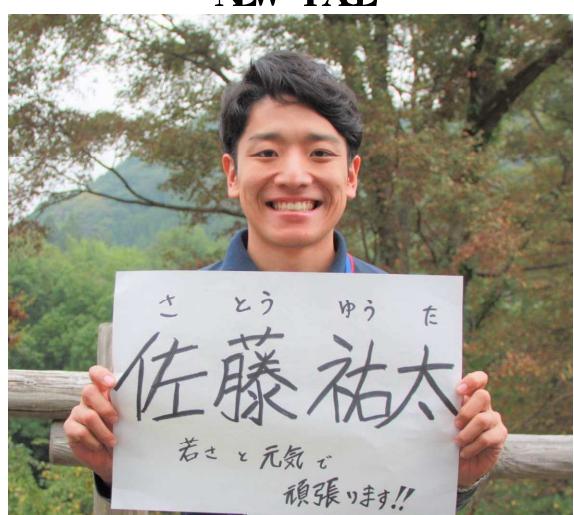
※ 10/26-1/23 (約90日)  
ページ閲覧数 56,484  
サイト訪問数 4,590  
サイト訪問者数 2,906  
(同一人は1とカント)  
平均ページ閲覧数  
1訪問当たり 12.5ページ

期日	全体	男	女	世帯数
S30	10,892			1,894
S50.4.1	7,176	3,574	3,602	1,681
S60.4.1	5,314	2,570	2,744	1,529
H1.4.1	4,788	2,314	2,474	1,467
H10.4.1	3,733	1,788	1,955	1,377
H20.4.1	2,852	1,328	1,524	1,264
H30.4.1	1,916	888	1,028	1,016
H31.4.1	1,843	862	981	1,003
R2.1.1	1,786	835	951	988

南牧村の人口推移。昭和30年には、1万人以上の住民が暮らしていたんですね。

## 協議会メンバー紹介

NEW FACE

地域おこし協力隊の佐藤祐太さん  
村内を元気に飛び回っています

## [南牧村の古い写真を探しています]

昔の南牧村の様子や生活、構造物や行事等を記録した古い写真を探しています。写りが悪くても、折れ曲がっていても大丈夫！お知らせ頂ければ、お伺いしたりお借りする方法で、デジタルデータとして撮影、保存させていただいています。

雇用推進課高柳まで

「役場村づくり・

2000年。二〇世紀最後の年。小学校に入学して初めて自分たちが生きているのが「へいせい」なんだって学んだ。あの時、所沢の小学校の教室にいた平成12年の春から、早いもので19年が経っていた。今は南牧村のアパートでテレビを見ている。そこに映っていたのは、国民総出の「天皇陛下万歳」であった。首相、芸能人、なんだか偉そうな顔した政治家たちが総立ちで手を何度も掲げる光景は、庄巻でなんとも言えぬ感情に襲われた。

しかもリアルタイムで行われているのを感じるのでは、その違いは歴然だった。それは教科書の白黒写真を見るのと、カラー動画で初めての改元の日であった。

平成30年から始まった僕の「なんもく暮らし」も、ついには令和2年に突入だ。毎日毎日が新鮮でドキドキワクワクがたくさんある。去年、古民家改修で訪れた家からは、毛沢東が文化革命を打ち出した時の新聞や満州国建国記念メダルがでてきて、あの事件は教科書の中のまやかしではなじみがないことがわかった。故郷を温ねて新しきを感じることができた。故郷を温ねて新しきを知る。令和2年もきっと、初めてづくりの一周年になるだろう。南牧から溢れてくる魅力をたくさん吸収しながら、ドキドキワクワクの一年になることを願う。

## れいわにねん

生まれた土地も育った環境も、それぞれ違うなかで生きてきた人たちが、なんの巡り合せかこの小さな山村で重なり、同じ時間を過ごしていることの不思議を感じることができます。

この村で生まれ、この村で幼少から成人と暮らし、いまもこの村でそれぞれの生業に励み暮らす人があれば、不便な上ないはずの山村に飛び込んでもくる若者がいたり、子育てをこの小さな村で！とやってくるご夫婦がいたり、都会でのキャリアを振り切り、帰がいたり、都会でのキャリアを振り切り、女性がいたり、第二の人生をこの村で穏やかに暮らすを決断する人たちがいたり、第二の人生をこの村で穏やかに過ごしたいと訪れる年配の方がやつてきたり…。いろんな人たちがいるものです。

当然のことながら皆さん、それぞれの経験や関わってきた人、過ごした環境から形成されてきたそれぞれの価値観を持ち合わせています。また、その価値観というものは、新たな経験や自分とは違うものに接することで変化してゆくことができます。

ながく同じ土地で暮らしてゆくなかで、いつの間にか周囲と一緒に化することに腐心し、核心に触れない曖昧さを身に付けて、疑問を感じながらも大きな流れに身を委ねてしまい、これが違った環境の生い立ちは持つ人たちが集まっているのですから、意見の相違や考え方の食い違いがあるのは当然のこと。

違っていることを見せないとで少しだけ重なり合える範囲を見つけることもありますし、違っていることを理解することはできるのであります。

それぞれの違った道程からそれぞれの違った個性が形成され、常に進化していくのですから、違っていることが当たり前ののだと思います。

## 我・想・明・村



『煮物が好きです！』と即答。ぽかくんとされ、僕自身も「ぽかくん」としたのを覚えています。まるで時が止まったようでした。まもなく意思の疎通が取れていないことに気付き、教わり、僕の南牧辞典に「きりぼし」という新たなる登録がなされるのでした。

『氣付き② 今年のサツマイモは、いくらかチガイ収穫量が少ない』鹿にやられたからという理由もありましたが、天候の影響もあつたからでした。やはり収穫量が例年よりも少ないという話を多く耳にしました。



太陽と風で美味しいきりぼし

数年前のことです。『きりぼし食べたことがあります。』そう聞かれた僕は『煮物が好きです！』と即答。ぽかくんとされ、僕自身も「ぽかくん」としたのを覚えています。まるで時が止まったようでした。まもなく意思の疎通が取れていないことに気付き、教わり、僕の南牧辞典に「きりぼし」という新たなる登録がなされるのでした。

『氣付き① 風を褒める：訪れた日が風のある日だったからかもしれないですが、みなが口を揃えたかのように『今日はいい風だなあ』と言うのが印象的でした。上州名物かあ天下とからつ風とは聞いたことがあります。』

『風の強い日がありました。』田中寄稿)

『佐藤祐太寄稿』

文化革命は打ち上げ下部への浸透に重点

マイモは、いくらかチガイ収穫量が少ない』鹿にやられたからという理由もありましたが、天候の影響もあつたからでした。やはり収穫量が例年よりも少ないという話を多く耳にしました。

『氣付き③ 今年でやめます。』『ほあもお今年

ひとりより』